

「能登半島地震と柏崎刈羽原発」

会場いっぱいの参加者に 立石雅昭さん語る

「災害からいのち・暮らしを守ることが何より大切」



立石さんの話に耳を傾ける参加者

原発立地の海岸地域はすべて隆起地域 県民は、東電・県に安全を求めよう！

各地に甚大な被害をもたらした能登半島地震は、複合災害時には避難が困難だということを誰の目にも明らかになりました。地震災害の深刻さに、志賀原発は大丈夫か？柏崎刈羽原発は？と多くの人が心配しました。

そこで、原発ゼロ長岡市民ネットとして緊急学習会を企画。2月12日にまちなかキャンパス長岡で、元県技術委員の立石雅昭さんを講師に学習会を開催。100人を超える参加者が熱心に学びました。

沢山の資料を用いて断層と地震のことをわかりやすく解説していただきました。いくつかご紹介します。○一個一個の活断層はわかるようになってきたが、連動して動くかどうかの解析が不十分で今後の課題だ。

○地震動は10年前に予測されていた。地震動が地域の人にどう影響するか、どう対策していくかが政府や自治体の役割だが、なされてこなかった。同様に新潟県は2年前に立派な地震被害想定報告書をまとめたが、どう生かして周知し対策するかに及んでいない。

○中越沖地震で柏崎刈羽原発は周辺よりも大きな揺れに見舞われた。柏崎と福島原発は新しい柔らかい地層の上に立つ。

○東電は中越沖地震後耐震補強工事を完了したと言うが、肝心の圧力容器、原子炉格納容器、原子炉建屋の耐震補強はできない。

そして立石さんは、いのちを守るために規制委・県・技術委に私達が何を求めるか、福島原発事故の教訓・能登半島地震の警告をどう生かして運動するかの示唆に富んだ話をされました。



福島原発事故から13年 ノーモア・フクシマ！ 柏崎刈羽原発再稼働ストップ！



3・11集会&パレード

☆とき 3月11日(月)
午後2時30分
☆ところ アオーレ長岡前

未だ終息には程遠い福島の現実、原発は人類の手に負えないものだという事を改めて示しています。そして元日の能登半島地震は地震国日本の原発がいかに危険であることを警告しています。いのちを守るため、声をあげ行動しましょう！

*詳しくは同封のチラシをご覧ください。

「原発市民検証委員会」がシンポジウム開催

1月21日、新潟の会場に300人が集まりました。オンライン参加を含め県の元検証委員の5名のパネリストが能登半島地震後の問題点を指摘。「柏崎刈羽原発の耐震設計は中越沖地震前の基準」「佐渡へ伸びるひずみ

集中帯で今後も大地震の恐れ」「避難での被曝線量検証は未実施」「屋内退避は絵空事」との話に参加者は一層不安を募らせました。(五十嵐)